

神様をお迎えして共に生きれば、宗教(家庭連合)はいくら立派でも、神様との直接的な関係を結ぶ生活(素晴らしい生活)とは比較出来ない!

私たちが期待する聖霊の役事は、映画にでも出てくるようなドラマチックなものを考えていますが、聖書のみ言を見てみなければなりません。

コリント人への第1の手紙12章で、聖霊の恩賜、賜物の中で、神様から知恵を受け取ることが聖霊の恩賜です。神様から知識を得ること、それも聖霊の恩賜です。

信仰を受けるのも信仰がより堅くなるのも、それも聖霊の恩賜なのです。他に何が出てきますか?コリント人への第1の手紙12章に?異言は最後で。奇跡的な能力も出てくるでしょう。

知恵の役事も出てきます。異言も出てきます。善悪の解釈、判断力も出てくるでしょう。

そして異言を解釈できる能力も。この全ての内容が聖霊の役事なのです。

私たちは聖霊の役事が1つや2つと置いていましたが、知恵、知識、信仰、奇跡、癒し、全てのことが同じ聖霊の役事なのです。このように出ています。

何故ですか? **私たちは奴隷の時代、蕩滅の時代にいるのではない**

**奴隷=お金の自由が無い=献金の奴隷時代
終なき摂理献金の十字架=日本の蕩滅時代**

く、これからは解放釈放の時代に生きなければなりません。解放釈放の時代。その解放釈放の時代は天使長たちにとっても恐

**解放=摂理献金奴隷からの解放
釈放=過去の蕩滅時代からの釈放**

ろしい時代です。何故ならば、天使長を通して神様へ帰る必要がないからです。私たちは直通で直接にお父様、神様、イエス様へ

『天使長=協会組織』が天の子女(食口)を管理するのではなく、天の子女が求めれば神様が、お父様が直接に対して下さる時代=解放釈放時代が到来しています!

行くことができます。解放釈放の時代。これからはエジプトでの奴隷の時代ではなく、エリコ城の壁が崩れ落ちて偽りの王たちを

**エジプト奴隷時代=日本家連摂理献金地獄時代
偽りの王=献金横領の韓国一部指導者グループ**

皆滅ぼした後で、約束の地へ再び帰ることのできる解放釈放の時代です。黙示録の予言の成就の時代の到来!

天のお父様と共に生活して、奇跡や癒しや異言等の役事として色々な形で現れます!

その時代についてお父様がこのようにお話されました。

未来には神様をお迎えして共に生きなければならないと。それはどういう意味ですか?

私たちはある宗教を信じて神様へ帰るべきものなのか? でなければ、神様との関係、それは宗教ではなく、神様との関係が必要なのか? 宗教はいくら立派でも神様との直接的な関係とは比較できません。比較できないのです。

お父様はこれから聖霊として役事をされます。宇宙の王として、宇宙、霊界、天上の王として。TFの役事に期待!

私たちは何処へ行っても、この国へ行ってもあの国へ行っても、故郷へ行っても、田舎へ行っても、お父様と一緒にいかなければなりません。皆さん。共に動かなければなりません。

報告祈禱しても『アボジ、今日私は全羅道に行って叔父さんに会いに行きます。』と報告して。

報告祈禱生活が重要です…!

『アボジ、今日私は子供たちを連れてソラク山に紅葉を見に行きます。アボジも一緒に行ってください! 全てのことを共にする生活です。アボジと一緒に生活を…!』

お父様が会議をされているとき、私はお父様と誰にも拘束されない自由な関係でした。お父様が会議をされているとき、私はお父様に駆け寄ってお父様のお腹に抱きつき顔をお腹に擦り付けていると、幹部たちは皆、『おお、なんという。なんという。私たちが会議しているというのに、』と当惑の様子でしたが、お父様は『あはは。こいつ。よしよし。』と喜ばれ、自由でとらわれない自然な姿を好まれました。あの天使長たちはお父様が喜ばれること、好まれることを考えずに、全ての人たちを自分たちの規律に従わせようとする偽りの者たちです。

私たちはお父様と何にもとらわれない自由でのびのびした関係でした。その写真を見せてあげましょうか? オウムも動物たちと一緒に自由で自然な姿です。

息子と娘が父親と近い関係、親と子が共にする、愛する家族が共にいる家族はそのような規範を超えて、主の中でお父様と一緒に踊って動く、そのような世界でした。

天国生活とは規律(天使長が決めた規則)を超えた、主(天のお父様)の中でお父様と一緒に踊って動く、その様な世界でした。